

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑 2ユニット		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	令和6年 6月20日	評価結果市町村受理日	令和6年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&lrsvosvcd=2274200639-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 登呂公園が前にあり、季節感を感じる環境や地域資源に恵まれたグループホームです
* 職員教育に力を入れ、資格取得や研修などの支援をし、職員のスキルアップを図っています
* 専門のコンサルタントを立てて職員の意見や苦情の収集、労働環境の整備を行い事業所の安定を図っています
* 利用者の外出支援として、なるべく毎日散歩や日光浴が出来る様に支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駐車場での日向ぼっこを日課とするともに、事業所の目前に広がる公園は日常の散歩コースとなり、近隣を巡る際には「田植えだね」「鳥が来たね」「これから蓮華畑になるね」と四季折々の身近な自然を感じることで話題も盛り上がりします。利用者同士の「ありがとう」「大丈夫」といったやりとりも、このような日常の刺激から生まれていることが見え、それらが職員との良好な関係にもつながっている様子でした。施設長は、職員の資格取得に重きをおいており、希望があれば、研修受講のためのシフト調整をはじめ積極的に協力体制を整えていて、本人のスキルアップの高まりが介護の質の向上にも寄与しています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載しています。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図っています。会議などでも理念の基本を話しています。ユニット会議の資料にも理念を記載し意識統一を図っています。	社員証に理念を明示するとともに新入社員教育で説明をおこなうほか、ユニット会議録のトップに理念を掲げ、常に職員が意識できるようにしています。職員から挙げた課題は、特に秩序について重きを置き、理念に立ち返り検討することを施設長自ら促しています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	登呂公園の散歩が主ですが、運営推進会議や登呂祭りも地域との交流の場としています。 登呂祭りには市場を出し、子供会の踊りや、お神輿を見せてもらい、利用者様にとっても良い交流の場となります。	コロナが5類に移行した後は、登呂祭りで出店していた「やよい苑市場」を再開しています。利用者と一緒にミカンや落花生の袋詰めの準備や当日の販売をおこない、仕入れた400キロのミカンが完売するほど、地域との交流を深めています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を中心として情報発信をしています。民生委員、町内会長、地域包括さんと意見交換を行い、認知症や介護の考え方、やよい苑の現状などを発信します。 登呂祭りでは利用者と一緒にのみかん販売は以前から地域に知られています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、やよい苑での介護や研修の情報を提供し、また地域包括支援センターや民生委員からも地域の高齢者の情報や対応の情報を共有します。	地域住民にも家庭における介護の場面で役立ててもらえたらとの想いもあって、運営推進会議では事故報告や研修の内容を伝えるとともに、民生委員から地域の高齢者の情報を得たり、介護度の申請などの助言を行政から得ることができています	3月の運営推進会議では利用者の家族に開催の案内を出していますが、今後は利用者家族の定期的な参加が実現することを期待します	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して地域包括支援センターの方との交流により市との連携を図っています。又必要に応じて生活支援課、介護保険課、社会福祉協議会に相談や助言を頂くことがあります。	生活保護受給者がいるため、市役所の担当部署からの来訪があります。事業所の空き状況の確認は、地域包括支援センターよりも近隣の介護支援専門員や家族からの問い合わせが多く、満室時にもその状況を伝えた上で、見学の案内をしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを基本として身体拘束適正化委員会を実施し、身体拘束防止に努めています。	指針に基づき身体拘束適正化委員会を3ヶ月に一度開催し、身体拘束に該当する事例がないことを確認しています。本件は年間教育計画にも組み入れ、ユニット会議の場を活用して拘束に係る内部研修をおこなっています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講義内容を職員に情報提供する事により虐待防止の徹底を図っています。職員のメンタルケアを含めて個別面談等を行っています。			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講義内容を職員に情報提供する事により教育しています 制度の必要な利用者または申し出においては相談に応じます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は管理者が対応し、利用者のご家族にご理解、納得して頂けるように説明いたします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営推進会議での意見やアンケートを運営推進会議や各ユニット会議に反映させています。 ケアプランの説明時や体調や様子の変化を電話やメールでお伝えする際に御家族の意見やお気持ちを聞ける様にしています。	家族とのつながりを常に考え、毎月作成する「やよい苑だより」には利用者の様子を写真入りで届け、家族との情報共有とともに共感が醸成されています。例えば、帰宅願望のある利用者には家族と2人3脚で対応した結果、落ち着きを取り戻した事もあります	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映させています。 その他個別面談において、意見を聴き取り運営に反映させていく予定です。	リーダー会議とユニット会議では、主に利用者の変化や新しく入居した利用者の情報交換が主で、職員の運営に関する提案や話し合いは多くはありません。一方で個人面談では職員の働き方改革につながる改善が実っており、今後は面談を定期実施とする予定です	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状況を把握して対応しています。また個々の能力を生かした働き方を考え、モチベーションの向上に努めています。 超勤や有休については個々の申請によって行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修については積極的に支援を行っています。今年から研修については、動画研修の導入を試みています。 またユニット会議では年間教育計画に従って、教育に取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は日常的には出来ませんが入居者の紹介や面接の為の訪問時に情報交換をサービスの向上に繋げています		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報、家族の間診票、アセスメントシートを活かして本人との信頼関係を築くように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの作成時に、要望等を聞き取ると同時に、施設に於いて出来る事出来ない事を含め充分な説明を行い信頼関係の構築に努力しています また毎月担当職員からご家族にお手紙を書いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを生かして対応を図る、その後はケアプランの説明を事前に電話で行う事により意向や希望を伺いながら、様子の変化を常に報告相談出来る様に心掛けます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアプランを活かして利用者の意向に沿った介護が出来る様に心掛けています。 ユニット会議に於いて利用者の情報を共有出来る様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを活かし、家族と問題点を共有してお互いに協力しながら支援出来る様に心掛けています。 様子の変化は常に報告相談を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には、「家族の間診票」をもってなじみの情報を聞きます。 その後はケアプランを活かしご家族も協力して頂きながら継続できる様に考えていきます。	コロナ禍におこなっていた制限もなくなり、居室での面会が再開されていて、「毎週面会したい」との家族の要望も叶えています。また在宅の頃からの馴染みである友人からランチの誘いがあった利用者もいて、家族に了承を得たうえで親交が実現されています	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味や関心に配慮しながら、テーブルの席を設定したり交流しやすい環境を工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も連絡が取れる様にしています。転所の場合は様子を聞き支援できる情報があれば提供します。お看取りした利用者様には初盆にお花を送らせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプランにはご本人の希望や意向を組み入れ利用者中心のプランを作成しています。ご家族からの意向も聴き取り相談しています。	在宅の頃お世話になっていた介護支援専門員の情報を参考にしつつ、入居時の介護計画書は事業所で作成しています。更新時には日々の記録と利用者の声を踏まえたモニタリングを検討した上で、新しい計画を作成しています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に基本情報、家族の問診票、聴き取り等により把握できる様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報は介護記録の入力や日報により職員間で共有し増すが、ユニット会議に於いて再び全体の情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議において利用者の状態の把握や問題点を話し合い、各担当者により経過報告を提出してもらいケアプランに活かしていきます。	職員はユニット毎固定の配置となっており、ユニット会議はサービス担当者会議を兼ねていません。サービス担当者会議には専門職の参加はないものの、協力医と訪問看護事業所看護師の定期訪問を通じて得た意見は、サービス担当者会議の議場に上げています	ユニット会議の時間の中でサービス担当者会議をおこなうのではなく、続きの時間であっても別とすることや、更にできればサービス担当者会議には家族を招くことを期待します(専門職の出席は実質難しい為)
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録より抜粋し経過報告(7表)に記載し介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位の介護に柔軟に対応していく為に、個別支援が必要な場合はケアプランに組み入れながら対応しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登呂公園等の地域資源を生かし散歩したり玄関から公園を眺めて季節の変化を楽しむ事が出来ます。 また近くのドラッグストアで買い物をしたり秋には登呂祭りへ参加して地域の方との交流を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に訪問医は定めていますが、専門医が必要とされる方は、訪問医と連携を図り専門医に受診して頂けるように支援いたします。	協力医の訪問診療は月2回おこなわれ、在宅からのかかりつけ医を継続している1名も同様に受診しています。施設長、ユニットリーダーが立ち会い、情報の共有が図られています。また家族の協力のもと、皮膚科、眼科等の専門医に通う利用者もいます	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医師は情報を共有し連携が図られる事により、利用者が適切に看護が受けられる体制が出来ています。 毎週金曜日の9時から訪問看護が行われその記録は医師に報告し連携を取ります		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医は医療機関と連携し情報交換や相談に努めて頂いています。 退院時の診療情報を訪問医に提供し看護サマリーによって看護情報を介護職員に提供して行きます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化による指針を定め対応していきます。 担当医から症状や状態についてご家族に説明し、ご家族の意向を確認します。	重度化については、「重症化した場合における対応の指針」を重要事項説明書に明記のうえ、家族に説明しています。協力医は終末期の対応にも積極的で、事業所の安心につながっており、家族からも「最後までこの施設で」との声が多く聞かれています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし、防災訓練時応急対応の訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を定め年2回防災訓練を実施しています。1回は地震、もう一回は水害を想定しています。	年間計画に沿って、地震・水害の避難訓練を実施しています。訓練時には専門業者より火災報知機の説明を受けており、特に新規採用職員に対しては避難経路の確認もおこない、また訓練実施後はリーダー会議で反省点を見出しています	漏電からの火災を懸念していることから、専門業者による点検や火災想定避難訓練の実施を期待します

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基に実践努力しています。年に一度、年間教育計画に従って動画研修の機会を設けています	契約にあたり個人情報に関する利用契約書を明示したうえで、同意書を交わしています。施設長は「利用者本人に許可を取る」「ですます調の言葉遣い」が基本だとして、職員の育成支援にあたっています。また同性介助にも出来る限りの配慮を以って対応しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢の中から自己決定出来る様に利用者に対して声掛けに努める様に行きます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念を基に実践努力していますが、職員不足や利用者の重度化により希望に沿えない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをしながら利用者様に合った身だしなみを実践する様にしています。 ご家族の協力を頂きながら季節にあった衣類の購入をお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来る事をお願いしながら職員が食事の準備を行い、献立を掲示し楽しみにして頂ける様に心掛けています。	献立は1週間単位でユニットごとに作成し、3食の中で同じ食材が重ならないように配慮しています。利用者には一人ひとりの出来ることを尊重し、もやしのひげ取り、玉ねぎの皮むきなどをお願いしています。また誕生日のケーキをはじめ、行事食も取り入れています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的な料理を基本として行っています。 水分摂取や食事量は介護記録にて管理していますが、栄養バランスや、カロリー計算まではしていません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実践しています。 週に1回歯科医が往診しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けやトイレ誘導により排泄の失敗が少なくなる様に務めています。	様々な状況の利用者がいる中、本人の意思を尊重し気持ちよくトイレ向かえるように、職員が適宜交替するなどチームケアのもと対応しています。また肌の状態により布パンツに変更したり、パッドについても家族の経済的負担に配慮して検討しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については水分摂取や運動に日常的に心掛けていますが、利用者様の体調によっては医師と連携しながらお薬によって対応しています。		
	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくり入って頂ける様に支援しています。入浴時間を定めて対応していますが、特にご本人の希望時間があれば優先して対応しています。	週2回の入浴をおこない、入浴時間は30分程度を目安にしています。中には血圧の関係で時間を調整する利用者もあり、また「家のお風呂が一番良い」という人には気持ちを切り替えて愉しんでもらえるように、入浴剤も試みしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は設定していません。ご利用者様個々の生活習慣を尊重して、休んで頂きます。但し眠りやすい環境づくりに配慮する為にテレビは22:00に切ってもらう様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が配薬する事になっていますので全ての職員が薬の管理について把握しています。処方箋は医師から薬剤師に依頼され、薬剤師から薬の説明や用法、容量についての情報をもらい、職員が介護記録に入力し情報共有します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを一緒にやりながら役割を持つ事により生きがいや喜びにつながる様に配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	登呂公園の散歩を日常的に日課としています。が、個別支援として近くのスーパー等へ買い物に行きます。また、ご家族と一緒にの外出に対しても支援致します。	目の前に広がる登呂公園の散歩を常としており、事業所の駐車場での日向ぼっこや、近所のスーパーマーケットへの買い物も利用者の楽しみの一つになっています。また春の花見や七夕見学など季節を満喫できる外出も月に1回計画されています	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたい方には近くのストアに同行し買い物支援を行います。 またお金を持っていないと不安になる方にはご家族と相談して金銭管理を行ってもらいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族またはご利用者様からの希望があれば電話、ラインのビデオ通話に対応しています。 ご本人様が手紙を書きたい場合はハガキを準備し住所などの情報を提供します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアーには職員が季節に応じた飾りつけを行い、衛生的に管理できる様に職員が清掃を行います。 空調面はエアコンを一括管理する事により適切な温度に設定します	統一されていた居室の表札は、生活を送る中で利用者一人ひとりが認識できるように変化を図っており、現在はまちまちです。居室前の長い廊下の片側には一直線の手すりが配置され、歩くことがおぼつかない人でもつかまり歩きができ、体力作りに役立っています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべくお話が出来る利用者様同士を同じテーブルにしたり、廊下のソファでお話が出来る様に環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に御家族と相談しなじみのある空間造りに努めています。	趣味の貼り絵を飾ったり、自宅で使用していた筆筒を使う人、神棚に供えてあったものや位牌を持参した利用者もあり、自宅からの延長線上に生活があることが受けとめられる居室が少なくなく、自然と安心感が湧いてきます	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力に応じて居室からトイレに誘導出来る様に表示や手摺を設置しています。 またご自分の部屋が分かる様に名前や飾りを工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200639		
法人名	有限会社エムサービス		
事業所名	グループホームやよい苑 2ユニット		
所在地	静岡県静岡市駿河区登呂4丁目27-29		
自己評価作成日	令和6年 6月20日	評価結果市町村受理日	令和6年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&lrsvosvcd=2274200639-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 登呂公園が前にあり、季節感を感じる環境や地域資源に恵まれたグループホームです
* 職員教育に力を入れ、資格取得や研修などの支援をし、職員のスキルアップを図っています
* 専門のコンサルタントを立てて職員の意見や苦情の収集、労働環境の整備を行い事業所の安定を図っています
* 利用者の外出支援として、なるべく毎日散歩や日光浴が出来る様に支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駐車場での日向ぼっこを日課とするともに、事業所の目前に広がる公園は日常の散歩コースとなり、近隣を巡る際には「田植えだね」「鳥が来たね」「これから蓮華畑になるね」と四季折々の身近な自然を感じることで話題も盛り上がりします。利用者同士の「ありがとう」「大丈夫」といったやりとりも、このような日常の刺激から生まれていることが見え、それらが職員との良好な関係にもつながっている様子でした。施設長は、職員の資格取得に重きをおいており、希望があれば、研修受講のためのシフト調整をはじめ積極的に協力体制を整えていて、本人のスキルアップの高まりが介護の質の向上にも寄与しています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社員証に記載しています。また施設玄関にて理念を掲示し共有を図っています 会議などでも理念の基本を話しています。 ユニット会議の資料にも理念を記載し意識統一を図っています			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	登呂公園の散歩が主ですが、運営会や登呂祭りも地域との交流の場としています。 登呂祭りには市場を出し、子供会の踊りや、お神輿を見せてもらい、利用者様にとっても良い交流の場となります			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を中心として情報発信をしています 民生委員、町内会長、地域包括さんと意見交換を行い、認知症や介護の考え方、やよい苑の現状などを発信します。 登呂祭りでは利用者と一緒にのみかん販売は以前から地域に知られています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会において、やよい苑での介護や研修の情報を提供し、また地域包括や民生委員からも地域の高齢者の情報や対応の情報を共有します。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議を通して地域包括の方との交流により市との連携を図っています。 又必要に応じて生活支援課、介護保険課、社会福祉協議会に相談や助言を頂くことがあります。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルを基本として身体拘束適正化委員会を実施し、 身体拘束防止に努めています			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講義内容を職員に情報提供する事により虐待防止の徹底を図っています。、 職員のメンタルケアを含めて個別面談等を行っています			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度について、講義内容を職員に情報提供する事により教育しています 制度の必要な利用者または申し出においては相談に応じます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約業務は管理者が対応し、利用者のご家族にご理解、納得して頂けるように説明いたします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時及び運営会での意見やアンケートを運営会や各ユニット会議に反映させています。 ケアプランの説明時や体調や様子の変化を電話やメールでお伝えする際に御家族の意見やお気持ちを聞ける様にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット会議で職員の意見や提案を聞き運営に反映させています。 その他個別面談において、意見を聴き取り運営に反映させていく予定です。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状況を把握して対応しています。 また個々の能力を生かした働き方を考え、モチベーションの向上に努めています。 超勤や有休については個々の申請によって行っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修については積極的に支援を行っています。今年から研修については、動画研修の導入を試みています。 またユニット会議では年間教育計画に従って、教育に取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は日常的には出来ていませんが入居者の紹介や面接の為の訪問時に情報交換をサービスの向上に繋げています		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報、家族の間診票、アセスメントシートを活かして本人との信頼関係を築くように努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの作成時に、要望等を聞き取ると同時に、施設に於いて出来る事出来ない事を含め十分な説明を行い信頼関係の構築に努力しています また毎月担当職員からご家族にお手紙を書いています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを生かして対応を図る、その後はケアプランの説明を事前に電話で行う事により意向や希望を伺いながら、様子の変化を常に報告相談出来る様に心掛けます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ケアプランを活かして利用者の意向に沿った介護が出来る様に心掛けています。 ユニット会議に於いて利用者の情報を共有出来る様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランを活かし、家族と問題点を共有してお互いに協力しながら支援出来る様に心掛けています。 様子の変化は常に報告相談を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には、「家族の間診票」をもってなじみの情報を聞きます。 その後はケアプランを活かしご家族も協力して頂きながら継続できる様に考えていきます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の趣味や関心に配慮しながら、テーブルの席を設定したり交流しやすい環境を工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も連絡が取れる様にしています 転所の場合は様子を聞き支援できる情報があれば提供します。 お看取りした利用者様には初盆にお花を送らせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプランにはご本人の希望や意向を組み入れ利用者中心のプランを作成しています。 ご家族からの意向も聴き取り相談しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に基本情報、家族の問診票、聴き取り等により把握できる様に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報は介護記録の入力や日報により職員間で共有し増すが、ユニット会議に於いて再び全体の情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議において利用者の状態の把握や問題点を話し合い、各担当者により経過報告を提出してもらいケアプランに活かしていきます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録より抜粋し経過報告(7表)に記載し介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本位の介護に柔軟に対応していく為に、個別支援が必要な場合はケアプランに組み入れながら対応しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登呂公園等の地域資源を生かし散歩したり玄関から公園を眺めて季節の変化を楽しむ事が出来ます。また近くのドラッグストアで買い物をしたり秋には登呂祭りへ参加して地域の方との交流を楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に訪問医は定めていますが、専門医が必要とされる方は、訪問医と連携を図り専門医に受診して頂けるように支援いたします。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と医師は情報を共有し連携が図られる事により。利用者が適切に看護が受けられる体制が出来ています。毎週金曜日の9時から訪問看護が行われその記録は医師に報告し連携を取ります		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医は医療機関と連携し情報交換や相談に努めて頂いています。退院時の診療情報を訪問医に提供し看護サマリーによって看護情報を介護職員に提供して行きます		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化による指針を定め対応していきます。担当医から症状や状態についてご家族に説明し、ご家族の意向を確認します。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし、防災訓練時応急対応の訓練を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を定め年2回防災訓練を実施しています。1回は地震、もう一回は水害を想定しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	登呂公園等の地域資源を生かし散歩したり玄関から公園を眺めて季節の変化を楽しむ事が出来ます。 また近くのドラッグストアで買い物をしたり秋には登呂祭りへ参加して地域の方との交流を楽しんでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に訪問医は定めていますが、専門医が必要とされる方は、訪問医と連携を図り専門医に受診して頂けるように支援いたします。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問看護と医師は情報を共有し連携が図られる事により。利用者が適切に看護が受けられる体制が出来ています。 毎週金曜日の9時から訪問看護が行われその記録は医師に報告し連携を取ります		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問医は医療機関と連携し情報交換や相談に努めて頂いています。 退院時の診療情報を訪問医に提供し看護サマリーによって看護情報を介護職員に提供して行きます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化による指針を定め対応していきます。 担当医から症状や状態についてご家族に説明し、ご家族の意向を確認します。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	AEDの設置をし、防災訓練時応急対応の訓練を実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	防災計画を定め年2回防災訓練を実施しています。1回は地震、もう一回は水害を想定しています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けやトイレ誘導により排泄の失敗が少なくなる様に務めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防については水分摂取や運動に日常的に心掛けていますが、利用者様の体調によっては医師と連携しながらお薬によって対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴でゆっくり入って頂ける様に支援しています。入浴時間を定めて対応していますが、特にご本人の希望時間があれば優先して対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間は設定していません。ご利用者様個々の生活習慣を尊重して、休んで頂きます。但し眠りやすい環境づくりに配慮する為にテレビは22:00に切ってもらう様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	夜勤者が配薬する事になっていますので全ての職員が薬の管理について把握しています。処方箋は医師から薬剤師に依頼され、薬剤師から薬の説明や用法、容量についての情報をもらい、職員が介護記録に入力し情報共有します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などを一緒にやりながら役割を持つ事により生きがいや喜びにつながる様に配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	登呂公園の散歩を日常的に日課としていますが、個別支援として近くのスーパー等へ買い物に行きます。また、ご家族と一緒にの外出に対しても支援致します。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたい方には近くのストアに同行し買い物支援を行います。 またお金を持っていないと不安になる方にはご家族と相談して金銭管理を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族またはご利用者様からの希望があれば電話、ラインのビデオ通話に対応しています。 ご本人様が手紙を書きたい場合はハガキを準備し住所などの情報を提供します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアーには職員が季節に応じた飾りつけを行い、衛生的に管理できる様に職員が清掃を行います。 空調面はエアコンを一括管理する事により適切な温度に設定します		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべくお話が出来る利用者様同士を同じテーブルにしたり、廊下のソファでお話が出来る様に環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に御家族と相談しなじみのある空間造りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力に応じて居室からトイレに誘導出来る様に表示や手摺を設置しています。 またご自分の部屋が分かる様に名前や飾りを工夫しています。		